

東京工芸大学におけるアスベストの使用状況と対応について

東京工芸大学の厚木・中野両キャンパス施設内のアスベストの使用状況について、該当する施設の実態調査を実施いたしました。

その結果、厚木キャンパスの7号館（昭和54年竣工）715・716教室の天井裏鉄骨梁の耐火被覆に、アスベスト含有の吹付け材（含有する石綿の重量が当該製品重量の1%を超えるもの）の使用が確認されました。715・716教室のアスベストは、天井材で囲い込まれた状態であり、曝露の可能性は少ない安定した状態にありますが、安全を確認するため、空気中石綿濃度測定を実施し、両教室及びその天井裏における濃度は0.2未満f/Lであるとの分析報告を受けました。これは人体に影響を及ぼす恐れがあるとされている濃度10f/L以上（大気汚染防止法）と比べても、自然大気と同程度の数値であり、現状では教室利用に関し問題はありません。

また、中野キャンパスにおいては、分析の結果、2号館（昭和45年竣工）研究室（18㎡）の天井改修で使用された塗料に、アスベスト使用が認められましたが、当該研究室内の空気中石綿濃度測定結果から、安全上問題はありません。

以上の調査結果を踏まえ、本学は、引き続きこれら施設の定期的な点検・維持管理に努め、安全対策に十分な配慮をすることとしています。